

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議

カムイワッカ部会（第6回） 議事録

【日時】 平成27年12月3日（木） 10:00～12:00

【場所】 斜里町ゆめホール知床 公民館ホール

【議題】

- (1) 平成27年度カムイワッカ地区の利用状況について
- (2) 平成28年度のマイカー規制期間の設定について
- (3) 硫黄山登山道特例承認期間の設定について
- (4) 道道知床公園線カムイワッカ地区の整備工事状況について
- (5) その他

【会議資料】

- 資料1-1 カムイワッカ来訪者数の推移
 - 資料1-2 平成27年度カムイワッカ地区の利用状況について
 - 資料1-3 平成27年度シャトルバス利用状況について
 - 資料1-4 知床連山の登山利用者数（速報）
 - 資料2-1 平成26年度以降のマイカー規制の設定について（再掲）
 - 資料2-2 平成26年度以降3ヶ年のカムイワッカ地区における混雑状況の予測
（9月）（再掲）
 - 資料2-3 平成28年度スカイバス運行事業計画概要
 - 資料3 道路特例承認の期間について
 - 資料4 道道知床公園線 今後の事業計画について
- 参考資料 カムイワッカ部会（第5回）議事録

【出席者】

以下、一覧の通り。

機関名	職名	氏名
【専門家】		
北海道大学大学院農学研究院	准教授	愛甲 哲也
北海道大学観光学高等研究センター	教授	敷田 麻実
【地域関係団体】		
知床自然保護協会	理事	遠山 和雄
知床自然保護協会	理事	綾野 雄次
斜里山岳会	理事	滝澤 大徳
北見地区バス協会、斜里バス株式会社	社長	下山 誠
NPO 知床斜里町観光協会	部長	新村 武志
知床斜里町観光協会ウトロ部会		<欠席>
羅臼山岳会	事務局長	渡辺 憲爾
知床温泉旅館組合		鈴木 完也
知床民宿協会		<欠席>
ウトロ自治会	自治会長	梅沢 征雄
株式会社ユートピア知床		<欠席>
知床ガイド協議会	会長	岡崎 義昭
北見地区ハイヤー協会		<欠席>
一般財団法人自然公園財団知床支部	所長	青木 好和
【関係行政機関】		
北海道開発局網走開発建設部技術管理課	技術管理専門官	杉田 和之
北海道開発局網走開発建設部技術管理課	技術管理専門官	森 修二
オホーツク総合振興局網走建設管理部	維持管理課長	藤田 博康
オホーツク総合振興局網走建設管理部	道路課主査（道路）	菊谷 宏
オホーツク総合振興局網走建設管理部	事業課 道路第1係長	長谷川 寿
オホーツク総合振興局網走建設管理部	事業課 主任	白根 博人

オホーツク総合振興局網走建設管理部	管理・調整主査	松原 信嗣
オホーツク総合振興局網走建設管理部	維持主査	飯塚 恭朗
オホーツク総合振興局網走建設管理部	斜里出張所長	渡辺 佳次
オホーツク総合振興局保健環境部環境生活課	自然環境主査	梅島 朗
北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	和田 哲哉
北海道森林管理局網走南部森林管理署	総括地域林政調整官	川渕 義昭
北海道森林管理局網走南部森林管理署	総務係	村辺 寿宏
北海道森林管理局網走南部森林管理署	治山係	三橋 伸太郎
北海道森林管理局 根釧東部森林管理署		< 欠席 >
北海道運輸局北見運輸支局		< 欠席 >
北海道警察斜里警察署	地域・交通課長	山田 晋矢
北海道警察斜里警察署	地域・交通課 交通係長	土屋 淳二
斜里町役場総務部	環境課 課長	茂木 公司
斜里町役場総務部	環境課 自然環境係長	玉置 創司
斜里町役場総務部	環境課 自然環境係主事	伊藤 咲音
斜里町役場産業部	商工観光課 課長	河井 謙
斜里町役場産業部	商工観光課 観光係主事	三嶋 慎太郎
環境省ウトロ自然保護官事務所	自然保護官	前田 尚大
環境省ウトロ自然保護官事務所	自然保護官	永瀬 拓
公益財団法人 知床財団	事務局次長	寺山 元
公益財団法人 知床財団	公園事業係係長	秋葉 圭太
【運営補助】		
公益財団法人 知床財団	公園事業係参事	新藤 薫
公益財団法人 知床財団	公園事業係	佐々木 達也
公益財団法人 知床財団	公園事業係	片山 綾
公益財団法人 知床財団	公園事業係	江口 順子

【開会挨拶】

斜里町（茂木）：ご多忙中ご参集頂き感謝申し上げます。本日の司会進行を務めさせていただく斜里町環境課の茂木と申します。カムイワッカ部会は、長期間に渡りカムイワッカ地区における様々な事案を検討している部会であり、カムイワッカ湯の滝とアクセス道路である道道公園線における車両規制のあり方を議論する場と認識している。限られた時間であるが、活発なご意見交換をお願いしたい。

【議 事】

資料1-1について環境省（永瀬）が内容を説明

- ✓ カムイワッカ地区の来訪者数の推移について報告。本年のシャトルバスの乗車人数は、昨年比で12%増加。マイカーによる利用者数は、知床五湖の駐車台数を基に推計し、補完的に湯の滝に設置した赤外線カウンターのデータを使用した。期間合計の利用者数は昨年比12%増となった。マイカーによる利用者数の推計については、五湖の駐車場の拡張等の変更もあったことから速報値である。愛甲委員とデータを精査し、知床白書に記載する際に確定したい。
- ✓ カムイワッカ地区の利用者数は増加しており、遺産登録10周年の影響等が考えられる。特に海の日とシルバーウィークに多くの来訪者があった。
- ✓ 五湖駐車場の車両台数の予測とシャトルバス期間の利用者数（実数）は概ね相関があった。

資料1-2について知床財団（秋葉）が内容を説明

- ✓ カムイワッカ地区の現地連絡調整業務の実施結果について報告する。本年の状況は6月1日に道路開通後、8月1日～8月25日、9月19日～9月23日の計30日間がマイカー規制期間である。硫黄山登山道の特例利用期間は、6月20日～9月23日であった。
- ✓ 本年は、湯の滝の500m手前にバス停留所が移動したことが大きな変更点である。湯の滝まで徒歩で往復することに懸念もあったが、苦情や乗り遅れ等が顕著に増加することはなかった。バス停に設置した案内看板も効果的であった。
- ✓ 五湖の駐車場拡張に伴い、五湖の渋滞時間は例年より緩和された。
- ✓ 自由利用期間の混雑日については、関係機関の協力により現地誘導を行った。
- ✓ 現地でのトラブル発生状況については、ヒグマの目撃は100件弱。昨年のおよそ3倍の水準となった。増水による閉鎖は5回と例年並み。また、交通事故はすべて物損事故で9件発生している。硫黄山登山による遭難はなかった。

資料1-3について知床財団（秋葉）が内容を説明

- ✓ 本年のシャトルバスの利用状況について報告。乗車人数は過去5年間で最多であったが、五湖のみの往復利用は減少した。

- ✓ 9月のシルバーウィークは、8月のお盆以上に混雑した日が発生した。
- ✓ ウトロ道の駅の来訪者数におけるシャトルバス乗車人数を経年比較すると増加傾向がある。乗り換え周知は徐々に進んでいると考えられる。

資料1-4について環境省（永瀬）が内容を説明

- ✓ 知床連山の登山者数（速報値）については、岩尾別登山口と硫黄山登山口ともに、昨年とほぼ横ばいであった。
- ✓ 道道の特例承認の申請は351件、836人だった。利用形態については硫黄山往復が多かった。

斜里町（茂木）：本年の利用状況について、愛甲委員からコメントを頂きたい。

愛甲：知床五湖の駐車台数と湯の滝の利用者数には高い相関が確認されている。一方、五湖駐車場の拡張により、渋滞が緩和する等の状況変化が生じている。かつては、知床五湖の渋滞が300~400m以上になると、待ちきれずにカムイワッカへ向かう行動が多かった。渋滞緩和により、こうした行動が変化している可能性がある。車両1台あたりの乗車人数についても変化している可能性があり、こうした推定に用いる係数については、定期的な見直しが必要。今後、推計値の精度を高める必要がある。

斜里町（茂木）：適正な補正値を追及していく必要があるというコメントを頂いたが、他に質問、ご意見はあるか。

斜里山岳会（滝澤）：資料1-2について、カムイワッカのバス乗り遅れについて3件報告されているが、登山者が下山後にバス停の位置がわからなかった等の事例はあるか。

環境省（永瀬）：当初、バス停が湯の滝500m手前に変更したことによる混乱を懸念していたが、現地の連絡調整を担当した知床財団によれば、大きなトラブル等は報告されていない。

斜里山岳会（滝澤）：私事だが、カムイワッカに下山してからバス停が変更になっている事に気づき、焦ってバス停まで行った。本年の状況に関しては、関係するガイド協議会や山岳連盟は知っていたが、一般登山客が認知していたのか疑問があり、質問した。

知床財団（寺山）：現地状況について補足すると、確かに小走りになってバス停に向かう観光客はいた。道路管理者に案内看板を設置いただいたことにより、現地での周知が進んだ実感がある。また、情報提供も関係機関の間でうまくいった印象である。

斜里町（茂木）：看板等での周知が効果的であったとの報告である。こうした取り組みに関しては、今後も継続的に実施しトラブル等を減らす努力が必要である。

愛甲：バス停が移動したことにより、利用者の行動が変化したのか知りたい。湯の滝に入らず、橋の上で写真のみ撮る利用者の割合などは分かるか。

環境省（永瀬）：現地の監視員からの報告によれば、湯の滝に入らない利用者も見られたと聞いているが、具体的なデータは把握できていない。

知床ガイド協議会（岡崎）：私がガイドした際の状況では、お客様は楽しんでバス停まで歩いている印象であった。500mの区間を歩くことで周りの景色を見る楽しみもある。一緒にゆっくり歩くことでガイドとして解説もできるため、本年の状況は全体として好印象である。

知床財団（秋葉）：課題の整理をすると3点ある。第一に、バス停からの移動時間が加わり、湯の滝の滞在時間が短くなる点である。シャトルバスの運行間隔が適切であったか検証が必要である。第二に、監視員の負担がある。湯の滝の安全管理に加え、バス時刻の案内や乗り遅れの対策などが必要となり、業務量が増加している。第三に、バス停に戻った際に待合の施設等がない点である。

斜里町（茂木）：資料1-3、資料1-4に関して、他にご意見はあるか。

知床自然保護協会（遠山）：資料1-4の平成27年度硫黄山利用者数には、縦走者数は含まれているか。硫黄山利用者数と特例承認の申請数に差がある。岩尾別から登って下山したと理解してよいか。

環境省（永瀬）：利用者数は赤外線カウンターによる下山者数で出しており、硫黄山から下山した縦走利用者数を含んでいる。特例承認の申請数の延べ836人という数字は、道路管理者から提供いただいた数字である。

知床自然保護協会（遠山）：硫黄山登山のみの往復が少ないのが疑問である。

環境省（永瀬）：昨年より全体の申請数が落ちているため、縦走利用者数が減っている可能性はある。登山者の動きの内訳についてはデータを精査しなければ把握できないため、今の段階で質問に対して明確に回答できない。

斜里町（茂木）：他に質問等あればお伺いしたい。

一同：無し

斜里町（茂木）：議題2「平成28年度のマイカー規制期間の設定」について、資料2-1、2-2について事務局から説明いただく。

資料2-2、2-3について環境省（永瀬）が説明

- ✓ マイカー規制の期間設定については、平成26年～28年の3年間を区切りとして、カムイワッカ部会で検討を行ってきた。
- ✓ 車両規制期間の設定にあたっては、カムイワッカ地区の駐車可能台数を18台とし、1台あたりの駐車時間を30分とする前提において、渋滞の発生が予測される日を規制する考え方である。
- ✓ 9月の運用に関しては、平成26年は10日間、本年は5日間と混雑予測に応じて規制期間を設定した。来年度のマイカー規制期間は8日間とするのが事務局案である。

資料3について網走建設管理部（藤田）が説明

- ✓ 硫黄山登山に関する道道の特例承認期間については、平成28年度も基本方針は変わら

ない。シャトルバスの運行期間と併せて調整が必要と認識している。

斜里町（茂木）：マイカー規制期間は3ヶ年を区切りとして設定されていることから、来年度が最終年となる。事務局からは具体的な車両規制期間の提案があった。また、道道特例承認についても網走建設管理部から調整可能とのコメントがあった。道道特例承認の終了の翌日が土曜・日曜となっていることから、これについてもご意見をいただきたい。

斜里山岳会（滝澤）：日程の議論に入る前に、道道の特例承認の期間設定の基本姿勢を教えてください。固定されているのか、日数または曜日で決めているのかお聞きしたい。

網走建設管理部（藤田）：過去の経緯が分からないので説明出来ない。

斜里山岳会（滝澤）：行政機関で日程を決めているので、山岳会では情報がなく唐突に感じる。調整出来るのであればここで良い形で日程設定したい。

網走建設管理部（藤田）：開始日は春の除雪が入り、道路が開通した後の6月20日頃である。

知床自然保護協会（遠山）：例年だとカムイワッカ方面の道路開通は6月1日では。

斜里山岳会（滝澤）：6月上旬は、ルート上の積雪が多く遭難の恐れが高い。硫黄山に咲く高山植物のシレトコスミレの開花等を勘察した結果6月20日を開始時期とし、終了期間は登山利用が減少する9月の下旬以降とする提案を山岳会から行った。また設定の背景としては、ある程度の知識や装備を持つであろう登山者に限り特例を認めて頂いた経緯がある。

斜里町（茂木）：平成28年度の特例期間の設定については問題があるか。

斜里山岳会（滝澤）：カレンダー通りの設定だと問題がある。2泊3日の山行計画に支障があり混乱を招く恐れがある。25日までシャトルバスの運行とセットで延長をお願いしたい。

斜里町（茂木）：開始が6月20日という点については問題ないか。

斜里山岳会（滝澤）：土日という曜日を考えると、18日開始がいいのでは。

斜里町（茂木）：特例承認期間の設定については、管理者の都合もあり、この場で最終決定できないという認識。あくまで要望となる。持ち帰り前提の検討でよいのか。

知床財団（寺山）：持ち帰りは仕方ないが、情報周知が遅れることを懸念している。例えば、7～9月の第何週等何らかの法則で決めたい。「未定である」という情報は利用者の混乱を招く。法則を明確にしていただけると、情報周知をする側にとって有りがたい。

ウトロ自治会（梅沢）：来年度の9月最終週は、ウトロ愛護少年団の活動で硫黄山登山道を利用する予定であることから、特例期間を延長してほしい旨の要望を受けた。よろしくお願いしたい。

斜里町（茂木）：特例承認の期間を延長して欲しいとの要望であるが、マイカー規制期間設定との関係も重要である。斜里バスからご意見を伺いたい。

斜里バス（下山）：以前より、マイカー規制期間について、9月の実施は営業上厳しく、廃止も視野に事務局に要望してきた。現状の9月の利用人数だとバスを3台使用し、売上げは1日10万程度だが、通常の営業では3倍の売り上げが見込める。シャトルバスの運行を独立採算でやっている以上、赤字は全てこちらの負担となる。負担金の軽減についても

事務局に要望している。平成28年度9月の車両規制については、廃止もしくは規制期間の短縮を希望する。

斜里町（茂木）：これらについて、各規制の実施者である斜里警察署と網走建設管理部のご意見を伺いたい。

斜里警察署（土屋）：登山道の特例承認期間については、警察としては特に問題はない。交通安全については、一般利用者が減るのであれば、交通事故は減少する。本年9件の事故が発生している。幅員が狭く路盤もよくないため、事故を減らすための検討は必要と考える。ただし、車両規制の事務の面からいえば、短縮することに特段の問題はない。

斜里町（茂木）：網走建設管理部からはご意見あるか。

網走建設管理部（藤田）：登山道の特例承認については、常に落石の危険がある場所であり、期間は短いほうがよい。本来的には通行止めが原則であるが、調整は進めたい。

斜里町（茂木）：相反する意見が出ており、この場で決定は難しい。車両規制期間の設定および道道の特例承認の期間については保留とし、本年度に改めて部会を開催したい。この点についてご意見を戴きたい。

知床財団（秋葉）：マイカー規制期間の話題と登山利用に関わる特例承認の話題が混在して議論されており、混乱している。まず、マイカー規制期間について議論した後、登山道の特例承認の期間を議論すべき。マイカー規制期間については、地域の率直な評価や意見を出してもらいたい。

斜里山岳会（滝澤）：特例承認については、その性格上、単純に延長することが難しいことは理解している。利用者への情報提供の部分がクリア出来るのであればよい。混乱しないような、利用しやすい環境を念頭に検討いただきたい。

斜里町（茂木）：その他ご意見はあるか。

知床自然保護協会（綾野）：斜里バスとしては、今まで赤字を補填して運営してきたということであるが、来年度9月は運行しないという選択もありうるのか。仮にそうであれば、マイカー規制そのものが成り立たない可能性もある。負担金をゼロにしても運行は難しい状況か。

斜里バス（下山）：事務局には話しているが、負担金がなくなったとしても運行は厳しい状況。

環境省（前田）：斜里バスが身を削りながら運営してきた側面がある。マイカー規制という社会的な制度であったとしても、事業所として運行しないという判断も考えられる。9月の規制期間の要望として、いつ頃までなら良い等の希望はあるか。

斜里バス（下山）：平成28年度9月は、祝日である9月22日までの連続5日間というのが現実的である。地域の公共交通機関を担う会社として、来年度すぐに廃止するとは言えない。しかし、平成29年度以降は、飛び石連休となる9月の規制期間は廃止して頂き、6年後の大型連休となるシルバーウィークに再開するというのが提案である。

知床財団（寺山）：来年度9月の運行を廃止しないという発言を聞いて安心した。しかし、

民間事業者に社会的な制度を担っていただいている以上、こうした構造そのものについて改善しなければ、いずれ破たんする可能性が常にある。マイカー規制の仕組みを継続するのであれば、カムイワッカ地区の利用促進を含めた検討が必要である。

斜里町（茂木）：抜本的にシステムを検討する必要があるという意見である。平成28年度については規定の枠組みの中で進めるが、平成29年度以降については、マイカー規制のあり方やカムイワッカ地区の利用のあり方等について幅広く検討していく必要がある。

愛甲：平成29年以降の枠組みを検討するにあたっては、どの程度の混雑がいつ発生するか来年度のデータが重要となる。今からモニタリングの準備を行っていただきたい。

環境省（永瀬）：年度内にもう一度部会を開催することに関し、ご理解いただきたい。地域の意見やモニタリングの件も次回の部会で提示したい。

環境省（前田）：斜里バスからは期間縮小の意見があり、山岳会と自治会からは区切りのよい日曜までといった意見をもらった。他の参加者からも率直な意見を頂きたい。

自然公園財団（青木）：斜里バスから負担金の軽減について、事前に事務局に申し入れがあったならば、事務局側でしっかり整理・調整し部会に諮るべき。

環境省（永瀬）：従来においては、マイカー規制期間の設定や負担金のあり方については、斜里バスと事前調整した後、部会を開催していた。今回は、部会の皆様に現状を知っていただくという意図もあり、あえて調整をせずオープンな場で議論して頂いている。次回の部会の際にはしっかりと調整した上で報告したい。

知床自然保護協会（遠山）：資料2-1の3の部分で、マイカー規制期間はカムイワッカ部会の合意を持って決定するとある。道路の特例承認に関しては、道路管理者が決定するという理解で良いか。

斜里町（茂木）：あくまで特例承認については、カムイワッカ部会で議論し、合意した意見を道路管理者に要望するという理解である。

知床自然保護協会（遠山）：ここで合意しても道路管理者が合意しなければ最終決定には至らないということか。

網走建設管理部（藤田）：最終的には道路管理者の判断で決定するものとする。もちろんカムイワッカ部会での意見や意向を受けた上で決定する。

斜里山岳会（滝澤）：制度開始から前提は変化していない。われわれが要望を出しても道路管理者が最終的に決めるということである。

環境省（前田）：昨年までは、特例承認の期間を議論する場がなく、マイカー規制協議会で発表という状況であった。本年は、部会で協議の場を設定し、調整する機会ができた。特例承認について意見集約の場ができた点は、前進しており好意的に捉えていただきたい。

斜里町（茂木）：斜里町商工観光課長からご意見伺いたい。

斜里町（河合）：特例利用の話から逸れるが、カムイワッカ地区の利用促進策についてご提案したい。湯の滝の規制ラインの経過については、四の滝の滝つぼに大規模な落石があ

り、10年もの間利用が不可能となっている。カムイワッカ地区は、以前は10万人の利用があったが年々利用者数は減少し、満足度や魅力といった面でも低下していると認識。当課では、北見工大に協力を頂き、落石状況の定点モニタリングを継続してきた。本年度観測が終了したが、調査結果としては現在も落石は継続しており、かつ落石は不規則に発生している状況である。落石のリスクそのものは変わっていない状況であるが、四の滝まで登ることのできる仕組みを検討したいと考えている。外国人利用者、特に欧米人は体験型観光を好むという背景もあり、環境づくりを進めたい。リスクが内在している状況で利用を認めるためには、リスクを明示する必要があり、ヘルメット装着やガイド付を条件とするといった案も考えられる。町議会でも議論になっているため、四の滝再開に向け、次回の部会を目的に提案させていただきたい。滞留時間や満足度を上げ、カムイワッカ地区の魅力向上に努めていきたい。この提案についてこの場で意見いただきたい。

斜里町（茂木）：次回以降検討を開始したいとのこと。落石や転倒等危険も伴う話であるため、ご意見をいただきたい。

知床自然保護協会（綾野）：貴重な意見であり議論が必要。私は40年近くカムイワッカに行っており、落石も変わらず続いていることを認識しているが、そういった場合は道路でも落石が発生し、通行できない状態になる。条件さえ丁寧に決めれば安全に利用できる可能性がある。リスクの周知については、例えば五湖からカムイワッカまで自力で歩ける人のみ四の滝まで行ける等のルールも考えられる。マイカー規制の期間だけでなく、自己責任でなら可能としては、場合によっては五湖より先は全て徒歩利用とし、それでもカムイワッカ湯の滝に向かう人は上流部も利用可能など、将来的に可能性があるものは今後検討していけたらよい。

知床財団（寺山）：リスクの明示や周知に関しては、知床全体において重要な課題である。資料1-3が示すように、利用者はカムイワッカを選択している。カムイワッカには未だ魅力がある。リスクを明示した上で、利用の促進を図りたい。

斜里山岳会（滝澤）：カムイワッカ湯の滝は沢登りの初心者レベルに相当する。今後新たな利用のあり方を考える良い機会なので共に考えたい。

知床ガイド協議会（岡崎）：将来的に四の滝を開放するなら、すでに滝つぼは埋まっている。イメージダウンに繋がらないよう告知が必要。その辺りを十分考慮して開放すべきである。

愛甲：リスクを明示し、利用者が受容する仕組みが必要である。通常の観光客とリスクを受容できる利用者とを切り分け、コントロールしなければならない。技術的にも難しい課題であり検討が必要。

網走南部森林管理署（川淵）：カムイワッカ地区は国有林であるため、遊歩道として斜里町が借りている状況。四の滝まで歩く間の落石が続いているのであれば、十分な検討をお願いしたい。

斜里町（茂木）：湯の滝に関して以上としたい。マイカー規制に関しては、来年度のシャトルバス運行の確認はできた。期間設定は次回の部会で調整することによるしいか。

一同：承認。

斜里町（茂木）：次に、資料 2-3 についてご説明頂く。

資料 2-3 について斜里町観光協会（新村）が内容を説明

- ✓ 来年度はスカイバス実行委員会を立ち上げ実行する。乗車料金については片道設定。来年度は道の駅発、自然センター経由で五湖行きのコースで運行予定。
- ✓ 7月と8月のスカイバス運行ダイヤについて説明。現在、知床財団の方でシャトルバスとスカイバスのプラン案を提案していただいている。

環境省（前田）：この部会では初めての話題なので、スカイバスそのものについて紹介いただきたい。

斜里町観光協会（新村）：東京からオープトップバスを借り上げ、遺産 10 周年記念事業として今夏実施した。開放感があり、普通の車やバスと違った見え方を楽しんでいただけると。

自然公園財団（青木）：停留所に関してだが、ウトロ道の駅発着とバスターミナル発着どちらが正しいか。

斜里町観光協会（新村）：ウトロ道の駅発着である。バス停の安全管理については、網走開発建設部と協議を進めている。また、人工地盤も活用しながら安全に行う予定である。

自然公園財団（青木）：ウトロ道の駅発着に関し、遺産センターの駐車場が混雑する可能性についてどうお考えか。

斜里町観光協会（新村）：来年度は往復対応でないの、乗客の動きは未知数である。今後の実行委員会にて協議したい。

自然公園財団（青木）：実行委員会については、自然公園財団も入り調整等させていただきたい。

斜里町観光協会（新村）：了解した。

資料 3 についてオホーツク総合振興局網走建設管理部（藤田）が内容を説明

- ✓ 道路特例承認の期間について確認。

斜里町（茂木）：マイカー規制の期間については、次回の部会で決定したい。特例承認期間については、次回部会で確認の上、最終的には道路管理者が決定するという段取りとなる。事前に事務局で調整し、具体的な提案をしたい。

網走建設管理部（藤田）：次回部会はいつ頃開催予定か。

環境省（永瀬）：今年度中で調整したい。

網走建設管理部（藤田）：持ち帰り確認したい。

資料4についてオホーツク総合振興局網走建設管理部（長谷川）が説明

- ✓ 道道知床公園線カムイワッカ地区の整備工事状況と仮橋の撤去について説明。仮置き場にある材を搬出することが出来なかったため来年度搬出予定。
- ✓ 擁壁補修工事については平成28年度に施工する予定であったが、保安林の解除申請が遅れており、1年遅れる見込み。コルゲート補修工事も予算がかかるため、来年度に延期している。工事がずれ込んでいる点についてご理解・ご協力を願いたい。

斜里町（茂木）：道道知床公園線カムイワッカ地区の整備工事状況と仮橋の撤去についてご説明いただいた。これについてご質問をお受けしたい。

斜里山岳会（滝澤）：工事とは関係ないが、自由利用期間においては、バスの巡回場が登山者用の駐車スペースであることが分かるような看板を設置してはどうか。カムイワッカ利用者と登山者の棲み分けが出来るよう協力していただきたい。

環境省（永瀬）：現在、自由利用期間はバスの巡回場を登山者用の駐車場として使用させていただいている。簡単なパウチを設置しているが、わかりやすくなるよう改善したい。

斜里町（茂木）：一点確認したい。仮橋材の搬出時期について、マイカー規制期間と重複する可能性はあるか。

長谷川：マイカー規制期間を外して搬出する予定である。コルゲート補修工事については一部資材搬入等でトラックが入る期間はあるが、工事は道路の下で行われるため基本的には交通整理で十分に対応が可能である。

斜里町（茂木）：その他議題については何かあるか。なければ全体を通してエコツーリズム検討会議の敷田座長からコメントをお願いしたい。

敷田：この会議はエコツーリズム検討会議の一部として開催していただいております、重要かつ利用者への影響も大きいテーマを扱っていると再認識した。一方で全体的な運営管理コストを考えると合理的かつ効率的な仕組みを検討する必要がある。観光協会からスカイバスの提案があったように、利用者の利便性や体験が向上し、結果としてそこから得た収益が保全に回せるような仕組みづくりが出来れば良い。

斜里町（茂木）：全体として特に意見がなければ閉会としたい。年度内に部会の開催が追加となり、再度ご参集いただくのは申し訳ないが何卒ご協力お願いしたい。

以上